

山縣記念財団からのお知らせ

当財団は、1940 年（昭和 15 年）6 月 3 日、辰馬汽船（のちに新日本汽船、山下新日本汽船、ナビックスラインを経て商船三井となる）の社長であった山縣勝見によって、「財団法人 辰馬海事記念財団」として設立されました。その後名称変更により、辰馬海事文化研究所、海事文化研究所そして 1964 年（昭和 39 年）「山縣記念財団」となりました。また、「新公益法人制度改革」の施策の中で、2012 年（平成 24 年）4 月 1 日からは、内閣府から認可を受け、「一般財団法人 山縣記念財団」として、わが国の海事交通文化の発展に貢献するために、次の 3 つの事業を柱として、活動しております。

1. 学術研究誌『海事交通研究』（年報）及び海事交通文化の研究及び普及・発展に資する出版物の刊行と関係先への送付
2. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々への「山縣勝見賞」（著作賞、論文賞、功労賞、特別賞）の授与
3. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献する事業への助成・協力

つきましては、これら 3 つの事業について、2020 年度分を公募することになりましたので、次ページ以降をご参照の上、応募をお待ちしております。

いずれにつきましても、申請書などの送付先、問合せ先は下記の通りです。
（申請書の Excel／Word フォームが必要な方は、メールにてご連絡下さい。）

【申請書などの送付先、問合せ先】

一般財団法人 山縣記念財団

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-10-3 正和ビル 5F

TEL：03-3552-6310 FAX：03-3552-6311

E-mail: zaidan@yamagata.email.ne.jp

ホームページ：http://www.ymf.or.jp/

1. 『海事交通研究』第 69 集への掲載論文等募集のご案内

当財団は、『海事交通研究』を 1965 年（昭和 40 年）11 月に創刊し、海運とその周辺分野に関する最新の研究成果を発表して参りました。

2020 年 12 月発行予定の第 69 集につきましても、以下要領にて掲載論文等の募集を致しますので、奮ってご応募下さいますようご案内申し上げます。

尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野 : 海運、物流、港湾、造船、海上保険及びその周辺分野をテーマとする論文等で、2020 年が当財団設立 80 周年にあたることから、本号を当財団設立 80 周年記念特集号:「海事産業の未来への展望と課題」と題して、原則として、海事各分野において進行中の動き（以下はそのうちのいくつかの事例ですが、他の事例も OK）について取り上げ、未来への展望を示した論文等を主に募集します。

（事例）①環境対応・省エネ技術の進展、②海運の輸送形態や船型の多様化、船舶の多機能化、③自動運航船と AI 化、④内航海運の 2 つの老齢化問題（船員・船舶）の解決、⑤船員労働実態・ワークライフバランスの改善と船員の確保、育成、⑥海事教育、海事広報の進展による「国民に身近な産業」への脱皮

また、上記以外に例年同様、自由テーマでの投稿も可能です。

2. 応募資格者 : どなたでも応募出来ます。
3. 応募原稿 : 未発表のもので、原則日本語としますが、相談に応じます。共著も可。
4. 容量 : A4 版縦置き横書き（40 字×40 行）で最大 12 ページ（目次・図表・注等を含む）とします。
5. 応募・審査手順 :
- (1) 以下につき、ご了承の上、ご投稿をお願いします。
- ①二重投稿・剽窃・自己剽窃とみなされる論文等の投稿は不可。
- ②書籍・論文や新聞等の文献から引用した場合及び参考にした場合は、出典（著者名・タイトル・発行所名・発行年月等）を明記する。但し、ウェブサイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記する。
- (2) 論文等執筆の申請をされる方は「年報掲載論文等執筆申請書」（以下「申請書」という）を 2020 年 1 月 6 日（月）～2 月 28 日（金）の間に、メール・郵便（2 月 28

日消印まで有効)又はFAXによりお送り下さい。(本誌巻末の「申請書」書式を切取線から切り取り、ご使用下さい。申請書のWordフォームがお入用の方はご連絡下さい。)

(3) 当財団の「年報掲載作品編集委員会」(以下「編集委員会」という)が提出された申請書を審査し、論文等の執筆を応諾するかどうかを3月末までにご連絡致します。

(4) 原稿提出締切日は2020年7月20日(月)23時59分までを財団着信時刻の締切として、メールにて応募のこととします。

6. 提出論文の年報への掲載に際しては、査読(注)を経て、編集委員会での審議にて決定し、9月下旬頃までにお知らせします(論文以外の形式で執筆された作品は査読の対象外です)。発行は、11月下旬～12月中旬の予定です。査読を経た論文には、《研究論文(査読付き)》と明記します。

(注) 査読は、大学または大学に準ずる教育研究機関において教育研究の経験のある者、および民間企業等で実務経験のある者の中で、査読対象の論文の研究分野に精通している者によって行い、①新規性・独創性、②有用性、③信頼性・公平性・客観性、④首尾一貫性、課題達成度、具体的提案、⑤読みやすさを評価項目とします。

7. 原稿料：年報に掲載された論文等については当財団所定の料率にて原稿料をお支払いします。

8. 年報掲載論文等執筆申請書・論文等の提出先・問合せ先：本誌 p.125 をご覧下さい。

以 上

2. 「2020 年山縣勝見賞」募集のご案内

当財団は、2008 年（平成 20 年）に設立者の名前を冠した「山縣勝見賞」を創設し、国民生活に重要な役割を果たしている海運を中心とする海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々を顕彰し、その研究成果を対象として表彰する制度を発足しましたが、この度も「2020 年山縣勝見賞」への応募を以下の通り受け付けます。

尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。

又、前回の「2019 年山縣勝見賞」につきましては、本誌 p.130 に掲載しておりますのでご覧下さい。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野 : 海運、物流、港湾、造船、海上保険及びその周辺分野をテーマとする著作（共著も可）、論文並びに業績
2. 募集開始日 : 2020 年 3 月 2 日（月）
3. 応募締切日 : 2020 年 4 月 30 日（木）（当日の消印有効）
4. 賞の種類及び対象 :

① 著作賞	海事関係の単著又は共著で、2017 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日までの間に発表されたもの。
② 論文賞	海事関係論文で、上記と同期間に発表されたもの。
③ 功労賞	海事交通文化の発展に顕著な業績のあった個人。 特にその業績の対象期間は問わない。
④ 特別賞	上記三賞に匹敵する功績が認められる個人又は法人 並びにその事業

尚、既に他の学会又は団体などから受賞している場合でも受賞の資格を有するものとします。
5. 賞金 : 各賞とも 20 万円
6. 応募手続 : 応募は、個人・団体の推薦又は自薦によるものとします。

応募者は、当財団宛所定の推薦/申請書（本誌巻末の書式を切取線から切り取り、ご使用下さい。申請書の Excel フォームがお入用の方はご連絡下さい。）に推薦/申請理由書並びに当該著書・論文コピーを 1 部添付の上提出して下さい。（著書は後日返却します。）

推薦/申請書・著書/論文コピー郵送先は、本誌 p.125 をご覧下さい。

7. 受賞者の発表 : 受賞者の氏名等は、2020 年 6 月に当財団のホームページ、その他海事関連のメディアを通じて発表します。
尚、受賞者への贈呈式は 2020 年 7 月 23 日の「海の日」の前後に行います。

以 上

3. 2020 年度補助金助成申込のご案内

当財団は、海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献する事業への支援・助成活動を行って参りましたが、2020 年度につきましても以下の通り募集致しますので、ご応募下さい。尚、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認下さい。又、2019 年度の支援・助成先につきましては、本誌 p.133 に掲載しております。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野 : 海事交通文化の調査研究、その他海事の発展に貢献し、または貢献しようとする事業への支援・助成
2. 募集開始日 : 2020 年 1 月 6 日 (月)
3. 応募締切日 : 2020 年 2 月 28 日 (金) (当日の消印有効)
4. 申請条件 :
 - (1) 2020 年 4 月から 2021 年 3 月までに実施する事業であること
 - (2) 収益を目的とする事業は対象とせず、海事交通文化の振興又は調査研究に関連する事業であること
 - (3) 既に実施している事業で、その実績が一定の評価を得ているもの、又はこれから実施しようとする事業の場合は、当該事業を実施するための実態的な人材・知見が整い、事業目的が明確に示されていること
 - (4) 本助成金を利用して活動した後、本助成金の使途に関する事後報告を速やかに行うこと
5. 申請手続 : 応募者は、当財団宛所定の申請書 (本誌巻末の書式を切取線から切り取り、ご使用下さい。申請書の Word フォームがお入用の方はご連絡下さい。又はこれに代え、募金趣意書などを提出して下さい。) 申請書提出先は、本誌 p.125 をご覧下さい。
6. 審査結果の発表 : 助成審査委員会 (2020 年 3 月上旬開催予定) により審査し、理事会 (2020 年 3 月中～下旬開催予定) に答申。結果は、4 月上旬までに申請者宛連絡します。

以 上

「2019 年山縣勝見賞」の結果報告

「2019 年山縣勝見賞」の受賞者を次の通り決定し、2019 年 7 月 19 日、海運クラブ（東京・平河町）にて贈呈式が行われました。受賞者、及び受賞内容につきましては以下の通りです。

（受賞者略歴は受賞時点のものです。）

記

《著作賞》

該当者なし

《論文賞》

丹羽 康之（にわ やすゆき） 著

「海上無線通信を活用した船舶の位置情報共有に関する研究」

（東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科／

応用環境システム学専攻 博士学位論文 2018 年 3 月）

受賞者略歴

1971 年生まれ。東京都立大学工学部機械工学科卒業。東京工業大学大学院理工学研究科機械工学専攻修士課程修了。1997 年運輸省船舶技術研究所（現・海上技術安全研究所）入所。以降、船舶運航の安全、海上無線通信の活用に係る研究に従事。2006 年以降、国際海事機関（IMO）無線通信・搜索救助（COMSAR）小委員会、航行安全（NAV）小委員会、航行安全・無線通信・搜索救助（NCSR）小委員会に日本代表団の一員として出席。2017 年より国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所海上技術安全研究所知識・データシステム系上席研究員。2018 年東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科応用環境システム学専攻博士後期課程修了、博士（工学）。発表論文として「指向性アンテナを用いた船間無線 LAN 通信実験」（『日本航海学会論文集』第 126 号）など。

受賞理由

永遠の課題である船舶衝突予防の問題を、海上での情報通信技術、クラウドサービスなどを駆使して考察した最先端の研究であり、AIS を搭載していない小型船舶にスマートフォン機能から位置情報を入手できる可能性を指摘するなど、有用性もあり画期的な提言を含む論文と評価する。

《功労賞》

富田 昌宏（とみた まさひろ）（神戸大学名誉教授）

受賞者略歴

1947 年生まれ。神戸大学大学院経済学研究科博士課程修了。岡山商科大学商学部助教授、神戸大学経済経営研究所教授、附属企業資料総合センター長等を歴任、現在、神戸大学名誉教授。研究分野は、イギリスを中心とするヨーロッ

パにおける近代海運の発展過程、企業史料分析。

受賞理由

神戸大学大学院で佐々木誠治教授の指導を受け海運史研究の道に進み、長年にわたり神戸大学等にて教鞭を執り我が国の海運・港湾・物流等に関する学術研究に注力された。その間、日本海運経済学会の事務局を担当して事務局長、副会長を務め学会の発展と有為の人材育成に貢献した。神戸大学においては新聞記事文庫のデジタル化公開を推進し、企業資料の収集・分析・公開を行う組織整備に尽力した。

＜＜特別賞＞＞

海部 陽介（かいふ ようすけ）

（人類進化学者、「3 万年前の航海 徹底再現プロジェクト」代表）

受賞者略歴

1969 年生まれ。東京大学理学部卒業。東京大学大学院理学系研究科博士課程中退、国立科学博物館に就職。理学博士。化石などから約 200 万年におよぶアジアの人類進化・拡散史を研究している。現在、国立科学博物館 人類研究部人類史研究グループ長。著書・監修書に『日本人はどこから来たのか』（2016 年文藝春秋；古代歴史文化賞）、『人類がたどってきた道』（2005 年 NHK ブックス）、『我々はなぜ我々だけなのか』（2017 年講談社；科学ジャーナリスト賞・講談社科学出版賞）など。第 9 回（2012 年度）日本学術振興会賞受賞。2016 年にクラウドファンディングを成功させて「3 万年前の航海 徹底再現プロジェクト」を開始。

2019 年 7 月、旧石器時代の石器で木をくりぬいて作った丸木舟を男女 5 名が漕いで、台湾から与那国島への渡航に成功し、最初の日本列島人の渡航の実態解明に大きく貢献した。

受賞理由

上記プロジェクトのリーダーを務め、候補となる古代舟を実際に造り、近海で実験を繰り返して、最初の日本列島人が海洋ルートで渡来した様子を再現することにより、人類最古段階の本格的海洋進出の実態解明に貢献した。綿密な人類史の学術研究に裏付けられた、こうした実証実験に至る構想力と、チームを組織してプロジェクトに挑む果敢な行動力・指導力、また、本プロジェクトの推進を通じて海事交通文化の発展に寄与したことを評価する。

＜＜特別賞＞＞

野間 恒（のま ひさし）（海事史家）

受賞者略歴

1933 年生まれ。慶応義塾大学経済学部（交通経済専攻）卒業。大阪商船（現・商船三井）入社後、約半世紀にわたり海運業界に身を置き、九州急行フェリー（株）社長を経て、現在は海事史家として海事関係の図書を多数執筆。『豪華客船の文化史』（1993 年 NTT 出版）、『商船が語る太平洋戦争』（2002 年私家版）でそ

れぞれ住田正一海事奨励賞、『商船三井船隊史』（2009年自家刊行）で住田正一海事史奨励賞を受賞。その他の主な著書に、『客船・昔と今』（1974年出版協同社）、『船の美学』（1982年舵社）、『客船の時代を拓いた男たち』（2015年成山堂書店）、『客船の世界史』（2018年潮書房光人新社）がある。

受賞理由

約半世紀にわたり海運業界に身を置き、会社員生活のかたわら、商船や客船・客船史に関する多数の著書を著わすなど、長年の研究を通じて、広く海事交通文化の発展に貢献してきた。



「2019年山縣勝見賞」贈呈式における受賞者記念撮影

2019年7月19日 於海運クラブ

左から丹羽康之氏（論文賞）、富田昌宏氏（功労賞）、海部陽介氏（特別賞）、野間恒氏（特別賞）

以 上

「2019 年度補助金助成」の報告

2019 年度当財団補助金の助成先と助成に係わる事業名を公表致します。

尚、諸般の事情から金額の公表は差し控えます。ご了承のほどお願いします。(敬称略)

・公益社団法人日本海洋少年団連盟

「褒状山縣賞」授与事業

「特に優秀な団員又は卒団後も引続き団員の指導等に当たっている指導者の顕彰、知識の更なる向上とモチベーションの昂揚を図り、人材の確保と海洋少年団活動の更なる活力向上を図ること」を目的に、同連盟第3代会長で、山縣記念財団創設者でもある山縣勝見の名を冠して 2010 年度創設され、授与式には当財団理事長が出席しています。

「我ら海の子展」事業

1973 年以来毎年開催されている「船、海や船で働く人、海の環境保全や景色など」をテーマにした児童絵画コンクールで、未就学児・小学生に加え、2016 年度からは中学生も対象に加わり、2019 年度は全国の子供達からの応募 12,589 点の内から、国土交通大臣賞 3 作品（中学生の部、小学生高学年の部、同じく低学年以下の部）はじめ、主催者、後援者、個人審査員による特別賞、金賞、銀賞並びに東日本大震災を機に創設された「がんばろう日本賞」の合計 61 作品に各賞が贈られました。尚、当財団からは「山縣記念財団理事長賞」を贈呈しています。

カヌー等海上資機材整備事業

カヌーや SUP 等の海上資機材は、海洋少年団の活動の幅を低年齢層や地域の青少年少女等に広げるのに有効との趣旨に賛同し、それらインフラの整備を支援しています。

・東京海洋大学海事普及会

（海事普及のための学校等）巡回活動事業

海事・海洋リテラシーの向上を目的とした、学生による各地の学校の巡回・講演活動。2019 年度は、静岡県と石川県の小学生を対象に講演を実施。

・NPO 法人故郷の海を愛する会

海から始まる物語 IN 2019

主に三重県内に在住する小中学生に対して、故郷の海を愛する心を育て、素晴らしい日本と日本の海を認識し『希望と憧れ』の気持ちを醸成させるために、体験航海、港や造船所、火力発電所などの見学会、講演会などを実施。

・《寄付》東京海洋大学附属図書館

第 11 回企画展示 船が育んだ江戸～百万都市・江戸を築いた水運～

(3) 船 一船、舟、船番所一

百万都市江戸の成立・成長の姿を探る展示のシリーズとして第 1 回(2017 年「海」)、

第2回（2018年『川』）に続き、今年は第3回として船が江戸の成長にいかに関わったか、をテーマにした展示会を開催。

- ・若土 正史（神戸大学大学院非常勤講師）
「ミデルブルグ事件」の CLAIMS の継続研究
- ・千葉 元（大島商船高専商船学科教授）
船舶関連の海洋汚染防止の法体制と現場の実情に関する調査
- ・瀬田 広明（鳥羽商船高専商船学科准教授）
イスタンブール海峡南口における海上交通の安全性評価に関する研究
- ・野村 憲一（国立病院機構さいがた医療センター医師）
大正時代、トルコ人捕虜を輸送した商船平明丸の調査・研究

以 上

2020 年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団

理事長 郷古 達也 殿

年報掲載論文等執筆申請書

下記の内容にて『海事交通研究』（年報）2020 年第 69 集に寄稿したく、申請致します。

記

1. 執筆者氏名

2. 所属

3. 連絡先

住所: 〒 -

TEL: () - FAX: () -

E-mail: @

4. 執筆希望論題（いずれかに○をつけて下さい。）

(1) 特集号：「海事産業の未来への展望と課題」に沿ったテーマ

具体的論題：「 」

(2) 上記以外の自由テーマ：「 」

5. 執筆の趣旨・概要（300 字～500 字程度）

以 上

山縣勝見賞推薦/申請書

(推薦/申請年月日) 2020 年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団
理事長 郷古 達也 殿

賞 の 種 類		①著作賞 ②論文賞 ③功労賞 ④特別賞 (該当分に○をつけて下さい。)	
受賞対象内容	a. 著作(書籍) 又は論文名		
	b. 論文賞の場合の 種別	学位取得論文(博士/修士) / 左記以外(掲載誌:)	
	c. 発 行 者 (学位論文の場合は大学名)		d. 発行/発表年月 年 月
	(フリガナ)		f-1 勤務先(役職)又は職業その他(・連絡先)
	e-1 氏 名 (著作・論文の場合、著者)		
	(フリガナ)		f-2 勤務先(役職)又は職業その他(・連絡先)
	e-2 氏 名 (著作で、共著者がいる場合)		
	(フリガナ)		f-3 勤務先(役職)又は職業その他(・連絡先)
	e-3 氏 名 (著作で、共著者がいる場合)		
推薦/申請理由		(別紙又は裏面に記載してください。)	

記載箇所: ①はb以外全て、②は全て、③はe, fのみ、④はe, fに加え対象としたい事項をaに記載して下さい。なお、本件についての今後の連絡先を上記e-1~3の方とする場合はその方の連絡先(メールアドレスなど)を併せてご記入ください。

- 添付物: 1. 推薦/申請理由書
2. (著作賞の場合)
対象書籍(☐ 返却希望 ☐ 寄贈可 いずれかに✓を入れてください)
3. (論文賞の場合) 1. 学位論文の場合は本文・要旨・審査結果報告 2. その他の論文の場合は本文または掲載サイトのURLをお知らせください

上記の通り、「山縣勝見賞」に推薦/申請します。

(※推薦/申請(=自薦)のどちらかに○印を付けて下さい。)

氏名 (団体の場合は、団体名・役職・個人名)

住所 〒 -

電話番号 () -

メールアドレス @

勤務先(役職)又は職業

2020 年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団

理事長 郷古 達也 殿

(申請者)

住所

氏名 (団体の場合は団体名と代表者名)

補助金助成申請書

下記の通り、海事交通文化の調査研究、その他海事の発展に貢献し、または貢献しようとする事業への支援・助成を申請致します。

記

1. 補助金助成を申請する事業名
2. 補助金の申請額 円
3. 補助金の必要時期 (当財団よりの振込希望時期): 年 月
4. 事業の目的・申請理由 (出来るだけ詳細に記述して下さい。)

5. 本事業（総額）に係わる収支案

（※収入（総収入）として、本補助金申請額及び他の調達方法、支出（総費用）として、
 具体的使途・金額を記入して下さい。）

収入予定			支出予定		
年月	内容	金額（万円）	年月	内容	金額（万円）
	本補助金				
合 計			合 計		

6. 以下の「申請条件」**全て**について了承した上で、本件を申請します。

（各項目の□に、了承の場合は☑を入れて下さい。）

- ☐ 2020年4月から2021年3月までに実施する事業であること
- ☐ 収益を目的とする事業は対象とせず、海事交通文化の振興又は調査研究に関連する事業であること
- ☐ 既に実施している事業で、その実績が一定の評価を得ているもの、又はこれから実施しようとする事業の場合は、当該事業を実施するための実態的な人材・知見が整い、事業目的が明確に示されていること
- ☐ 振込は貴請求書又は寄附金受入通知（金額、目的、振込口座、名義、振込希望年月日を記載）に対して行うこと
- ☐ 本助成金を利用して活動した後、本助成金の使途に関する事後報告を、遅くとも2020年4月末までに行うこと
- ☐ 補助金を使い切らなかった場合は、ご申請以外の使途に流用することなく、当財団に差額を返金すること
- ☐ 本活動の成果について対外発表する場合は、当財団補助金による活動である旨の記載/言及を行うこと
- ☐ （申請者の所属する大学等が会計処理を担当する場合のみ）一般管理費等に充当することなく、申請者の研究等事業に全額充当すること

7. その他参考事項

（申請者事業概要についてホームページで公表している場合は、URLをご記入下さい。）

8. 本件担当者名・連絡先住所及び電話・E-mail など

以 上